

'98 くすのき
VOL. 9

榊
林



学校所蔵美術品紹介

西日本最高峰

画題「石鎚山」



飯尾時春画伯

《経歴》

昭和17年から昭和31年まで、昭和36年から昭和41年まで、新居浜西高等学校で美術の先生として勤務されました。

また愛媛県高等学校芸術科研究会美術部門長、愛媛県美術教育研究会副会長等の外、愛媛美術会理事、光玄会代表、二光会会長等を歴任されていました。

平成7年8月18日歿ス
享年86歳



寄贈 加藤幸則殿

戦後の学制改革で高三の一年間を新居浜西高で過ごしました。

テニス部のキャプテンとして毎放課後練習に打ち込んでいましたが、テニスコートの真裏に美術部の部屋があり、由谷(旧姓 根岸)美恵子さんと松田雅夫(故人)君、真鍋博君等が飯尾時春先生のご指導を受けてクラブ活動をしていました。

私自身飯尾先生から直接お教えを受けたことはありませんが、金子国民学校一年生の時の担任であった船橋さかえ先生が飯尾先生のお姉さんであったようなご縁もあり、よくお声をかけていただきました。

昭和55年8月下旬に飯尾先生が大阪で個展を開かれました。私は、丁度その年の春から大阪弁護士会の副会長に就任していましたが、先生の個展が開かれた翌日の8月23日に同期生を中心にした三十数人の同窓生が北区の料亭で祝賀会をしてくれることとなり、飯尾先生のご臨席を得ました。

その時の個展の出品作品の中に先生の壮年期の作品と思われる素晴らしい石鎚山の絵があり、譲り受けたいと申し出たところ既に先約がありました。

そこで宴席の場で飯尾先生に新作のお願いをしたところ快くお引受けいただき、1、2年経ってこの絵が届けられました。従ってこの絵は飯尾先生の最晩年の作といえると思います。

昭和62年6月に近畿くすのき会が創立され、私がお会長に推されて同窓会のお世話をさせていただくことになりました。

折しも母校では創立70周年記念行事が行われることになりましたが、長い間沢山の同窓生の美術指導をされた飯尾先生の絵が、母校にあまり残されていないとお聞きしましたので、この絵に芳志を添えて寄贈させていただきました。

この絵が記念会館に掲げられていると聞き、所を得たものと大変嬉しく思っています。

(寄稿 加藤幸則)

表紙題字は、檜崎一光老師 写真は一宮神社の一番樟(撮影:田尾忠士氏)

写真絵本 「お手玉」

日本のお手玉の会(本部新居浜市) 監修、大西伝一郎(児童文学作家)文による写真絵本「お手玉」が、このほど文溪堂から出版され、お手玉遊びの教科書として人気を呼んでいる。

お手玉の作り方や遊び方から、世界と日本のお手玉がカラーで紹介され、三千年の歴史にも触れた、丁寧な編集になっている。

忘れかけていたお手玉遊びは、手から心へ温もりを伝え、手軽に楽しめる、見直されつつある。

価格1500円(税別) お問い合わせは日本のお手玉の会事務局へ
(0897-36-0600)



ごあいさつ

新しい時代の幕開け



樟樹会会長

世良 誠朗

新しい時代の幕開けにあたり、創立80周年を皆様
の御理解と物心両面にわたる絶大なる御支援を賜わり、
誠にありがとうございます。衷心より御礼申し上げます。

在校生の皆さんは「樟樹80年―大地に根付きそして
未来へ」の創立80周年テーマのもと、間近に迫った
21世紀の未来像に向かって、更により校風と伝統をつ
くるために、文武両道に力の限り励んでおります。

さて、私たちは「西高らしさ」を求めてまいりまし
た。朋の遠方（えんぽう）より来る有り（あ）亦（も）楽しからずや。（遠くに
住む友人が尋ねてきてくれた。楽しいことだ）「論語」
「学而」

人生から友情を除くのは、あたかも世界から太陽を
除くようなものである。……キケロ

この夏、8月1日（総会）は、どれだけの友と語ら
いを深め、新たな友を見つけられるか思い出多い刻と
していただきたい。

今や同窓生の絆（きずな）は、機関紙「樟樹」によ
って、更に深いものとなってまいりました。皆様のご
配慮とご理解を賜りましたこと、ここに厚くお礼申
上げます。

創立80周年記念行事を終えて

十年一昔と言われますが、本校同窓会誌「樟樹」の
発刊も第9号となり、今回は節目の刊行を迎えるまで
に成長しました。これひとえに同窓会の皆様方の御努
力のたまものと、心からお喜び申し上げます。

昨年本校創立80周年を迎えるに当たり、同窓会が
中心となって、PTA・教育振興会等で創立80周年記
念事業実行委員会を組織され、本校教育推進のために
校訓碑の建立、体育館緞帳の新調、記念誌の刊行等を
していただきました。

また、10月4日には創立80周年記念式典が本校体育
館で盛大に挙行され、続いて、昭和32年卒業の土岐憲
三・京都大学教授（工学部長）が「地震災害と活断層」
と題し記念講演をしてくださいました。

生徒たちは緞帳の新しくなった体育館での記念式典、
大先輩の記念講演等に深い感動と感銘を受けたものと
思われます。

また、同窓会の皆様方の御支援、先輩の御活躍に刺
激され、部活動や進学等においてすばらしい成果を上
げることができました。

ここに改めて同窓会の皆様方の御協力御支援に感謝
とお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。
終わりにりましたが、皆様方の今後ますますの御
活躍と御健勝を祈念して、ご挨拶といたします。



校長

久保田 清志

同窓生

文化面、産業界など各界にわたり活躍されている

同窓生をご紹介しますコーナーです

紹介



畑嶋恵理奈

【略歴】

平成4年3月

愛媛県立新居浜西高卒業

平成8年3月

埼玉大学卒業

平成8年4月

南海放送報道製作本部放送部入社

現在に至る

いろいろな人に会いたい

お化粧品も発声練習も車の中

「世の中の動きを逸早く知りたい」「いろんな人に会いたい」こんな気持ちで飛びこんだアナウンサーの世界。今年で3年目になりました。高校時代には授業中の本読みでも緊張して声が震えていた私ですが、今ではラジオ番組5本、テレビ番組1本を担当する忙しい毎日を送っています。

この4月からは生放送の担当も増えて、分刻みの勝負の中に身を投じていますが、私の大まかな一週間のスケジュールをご紹介します。まず月・火曜日。朝6時半オンエアのラジオ情報番組『おはようナイスモーニング』の為、朝5時に起床。顔を洗って服を着ること5分。すぐ家を飛び出して車で通勤。この

車の中が貴重な時間。発声練習をしながら、信号待ちはお化粧品タイム。人のあまり通らない早朝だからこそできる技でしょう。会社に着くと、届いたばかりの新聞にざっと目を通し、ネタ集め。天気予報やニュース原稿を整理して、本番を待ちます。朝は何といつてもさわやかさが一番。一言目の「おはようございます」

には全神経を傾けます。元気よく感じとしては、目覚まし時計代わりになるような心意気で。その後は暮らしに役立つ生活情報、交通情報、ニュース、天気予報などをタイムリゲよく伝えていきます。9時に番組が終わって食べる朝御飯のおいしいこと。近くのコンビニで買った穴子飯おにぎりに、アロエヨーグルト、

おでんにカップ味噌汁が私の定番ですが…。

この曜日は、正午からの葉書リクエスト番組「思い出のリズム」も担当。自分で葉書を選べるので、新居浜の方は優先的に採用しちやいます。これは内緒ですよ。

水曜日は半日かけて、テレビ「SONEなんかい」のロケ。南海放送の広報番組ですが、ウエディングドレスやサンタクロース姿、テニスをしたり、フルートを吹いたり、と半分「畑嶋恵理奈プロモーションテレビ」ではという噂もありますが、本人は至って真剣にやっているので…。

日曜日は昼1時から、ニューヨーク生まれの愛媛大学大学院留学生ベンジャミンと「ハロージパング」というラジオの生放送。高1で早くも英語につまづいた私にとっては、いくら簡単な英語を使っているとしても、理解するのは至難の技。番組とともに英会話力もアップしていけばと願っています。

松山に住んでいると、新居浜の動きに少し疎くなりますが、「太鼓祭り中継」「科学博物館取材」などで故郷に戻る度に、変化していく新居浜の町並みに驚いています。もっともっと新居浜と関わりのある仕事をしたいですね。その時は、ご協力お願いします。また、皆さん応援して下さいね。

10年先取りして工事する

住宅・ビル・工場 電気工事



四国大亜工業株式会社

代表取締役 下村 隆勇 (昭和30年卒業)

新居浜市徳常町3-1 TEL (0897) 37-2425 FAX (0897) 37-2416



母校での講演

土岐憲三

【略歴】

- 1938年8月 香川県生まれ
- 1957年3月 愛媛県立新居浜西高等学校卒業
- 1961年3月 京都大学工学部土木工学科卒業
- 1966年3月 京都大学大学院工学研究科博士過程終了
- 1966年4月 京都大学助教授（工学部、防災研究所）
- 1976年4月 京都大学教授（防災研究所）
- 1993年8月 同上（工学部）
- 1995年4月 京都大学評議員
- ～1997年3月
- 1996年4月 東京大学教授（工学系研究科・兼任）
- ～1998年3月
- 1997年12月 京都大学 大学院工学研究科長、工学部長 現在に至る

- ・地震工学専攻、京都大学工学博士、日本学術会議研究連絡委員（災害工学、基礎工学）、日本土木学会理事及び副会長、編集委員、国際連合上級科学顧問、世界地震工学会日本代表、日本自然災害学会会長などを歴任
- ・土木学会弁論文奨励賞受賞、土木学会論文賞受賞、国土庁長官表彰、通商産業大臣表彰
- ・著者に「構造物の耐震解析」、ほか共著書6編

筆者は昭和32年に新居浜西高を卒業し、京都大学工学部土木工学科に入学しました。その後、大学院の博士課程を終えて昭和41年に工学部助教授に任じられて以来、耐震工学もしくは地震工学の分野の研究に携わってきました。

そのせいでしょうが、1995年1月の阪神・淡路大震災以後は地震による災害についての講演を数多く頼まれるようになりました。それまで、関西には大地震は起こらないという科学的には何等根拠のないことがまるで迷信のように信じられていて、関東や東海地方に比較して地震対策が遅れており、講演依頼もそれ程多くはありませんでした。大震災以来は、その反動のように多くの人が地震に対して関心を持ちはじめ、地震関係の講演会なども数多く

開かれるようになり、一般の市民を対象とした講演会、生涯学習の組織、技術者集団の会合、ロータリークラブなど、あらゆる種類の組織から講演の依頼を受け、地震後の15ヶ月間で60回にも達しました。現在では既に100回を越えましたが、そのペースは次第に減っています。このように地震の専門家でない一般の人々は、地震の問題について、痛目目に遭わないと軽く見るし、一方では喉元過ぎれば怖さを忘れるというのが基本的な態度です。昨日まで無事なのだから明日も大丈夫であろうという気持ちで地震に対する備えを怠りがちなのです。神戸の地震では約6、000もの人命が失われましたが、その全ての人が前夜眠りに就く前には、明日も元気でいると思っていた筈なのです。地震の本当の怖さはここに

あることを講演の度に訴えています。昨年10月には新居浜西高の80周年記念事業の一環として講演させて頂くという光栄に浴しましたが、この時にも活断層と地震災害に関して生徒諸君に話をしました。この時の講演の前には、これ迄に不安な気持ちでいました。何故ならば、100回に及ぶ講演の中で聴衆の反応が最も悪かったのが、京大の文化祭で学生から依頼された講演であり、某私立大学での講演だったからです。講演に際しては聴衆の反応、すなわち顔つきや笑い声などを手がかりに、話の仕方やジョークなどを適宜組み換えるのですが、学生の場合にはどのような工夫をしても反応がまるでなく、講演の後でも大変気落ちがした経験があったからです。

西高の場合にも、相手が高校生であるから、聴衆を把握するのはもつと大変であろうとある程度覚悟していましたが、結果はまるで違っていました。まず、教頭先生が「起立、礼」と号令をおかけになると、体育館を埋めた1,200名の学生が一斉に立ち上がり、それに反応した瞬間から、こちらに緊張が走りました。そして、石鎚山麓を走る活断層の活動をも交えて、一時間半程にわたって話を進めましたが、後ろの方の席の生徒諸君は演壇上のOHPによる解説図なども見づらかったであろうにも拘わらず、ずっと静かに耳を傾けており、確かな手応えを感じつつ話を終えました。そして講演終了時に生徒を代表して生徒会副会長の女子生徒が、謝辞を述べてくれました。言葉も講演の内容を取り込んだものであったのに大変感心させられました。筆者は現在、研究や教育システムの在り方など、今大学が問われている諸問題と取り組んでいます。こうした高校生が大学に進むとどうしてあのように無気力な、そしてだるい学生に変わるのか、不思議に思えたり、これは大学での教育の在り方に問題があるのではないかと考えさせられました。このような一つの出来事で全てを判断するのは危険ではありますが、大学教育の問題点を考える一つのヒントを与えてくれた機会であったようにも思えます。

今日の食卓を彩る！

蒲鋒・じゃこてん・えびてん



秋月食品工業株式会社

代表取締役 秋月 禮三郎 (昭和30年卒業)

新居浜市宇高町4-1-53 TEL (0897) 34-4455 FAX (0897) 44-4587



一唱懸命

[コーラス部]

『合唱部員は、いつも心をひとつに、一生懸命歌います』

この誓いとも言える約束事を胸に秘め、私たち合唱部—三年生3名、二年生12名、一年生3名—は今年度の活動を開始しました。三年生一部の早期引退により、部員も18名となつてしまいましたが、夏のNHK学校音楽コンクールという最大の目標に向かって、日々努力を重ねている次第です。

西高合唱部員と言えば、つい半年前に突然再結成され、記憶に新しい方も、全く知らない方も大勢いらっしゃることでしよう。昨年の秋の西高祭を初ステージに、久々にこの学校にも歌声が戻ってきたのです。

再結成といえども、決して簡単なことではありませんでした。合唱を始める上で最も重要かつ大変なことは「人集め」です。それには随分苦労したのを思い出します。しかし、この半年間で合唱部を知らない西高生はいない程、私たちの部は有名になり、大きく成長しました。これま

で過去に、二度の大ステージで歌つてきましたが、秋の愛媛県高校文化祭合唱部門において『優秀賞』、冬のアンサンブルコンテストでは『金賞』及び『朝日新聞社賞』をいただきました。あの瞬間の感動は今でも甦る私たちの宝物です。

伝統も何もないゼロから出発した私たちが、なぜ簡単に受賞できるのか、と不思議な方もいるでしょうが、大きな喜びに代わる、日頃の厳しい練習を経験してきたのも確かです。

基礎からのスタートにより、体力づくりを始め、フェイストレーニング、発声、声づくり等、部が一丸となるために、休日の終日練習では時間の許す限り、ひたすら歌い続けたこともありました。大会前の私たちの緊張を和らげつつ、最後の仕上げは、我らの顧問、柳瀬志郎先生のすばらしい耳によって完成を目指すのです。

しかし、音楽に『完成』など無いわけで、個人間の感じ方、演じ方の違いが、大会では、各学校の魅力が、ホール一杯に響きわたります。そこ

で合唱は、独自の個性を要すると共に、作詞者の主張とそのメロディーから湧き立つ作曲者の訴えをいかに体で表現できるか、という非常に高度な課題を私たちに与えてくれます。これが、何といつても難関です。そして、歌うことが、ピアノやトランペットを演奏するのと大きく違う点は、体が楽器であることです。多少の体調不良からも、その楽器を操ることができなくなるので、私たちにあって、体調管理は必要不可欠の目標です。

合唱の奥の深さには、部全体が悩まされ、学ぶべき事の多さに驚くばかりですが、少しずつ身につけていきたいと思っています。

さて、今後の目標は、NHK全国学校音楽コンクール、県予選で金賞、そしてそれをステップに、全国の舞台を目指します。伝統も実力も何もない私たちですが、どの学校にも負けない根性、努力、チームワークで、精進していききたいと思っています。三年生にとっては最初で最後、一・二年生にとっては、新たな飛躍を求めて、悔いのないよう、暑さに負わず、頑張ります。

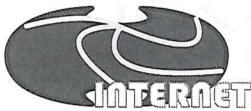
合唱部の伝統を築き上げるべく、成長する私たちをこれから見守り、今後の活躍を期待して下さい。

(部長 寺井美保)

の歩み

コーラス部

Personality & Global Village



info@shikoku.or.jp (お問い合わせ)

Shikoku Internet

株式会社 四国インターネット

本社 〒792 愛媛県新居浜市坂井町2-3-17

新居浜テレコムプラザ2F

TEL 0897-35-3600 FAX 0897-35-3601

営業時間 月～金 9:00～18:00

青春の汗といえばバレー。バレーといえは青春。バレーとは現在・過去・未来にわたり熱血スポーツの定番である。我が西高バレー部も例に漏れず、顧問の先生も熱血なら部員も熱血。一つでも多く勝ち上がるため、私達は日々努力を惜しまない。蒸し暑い体育館。ただひたすら白球を追い、走り、跳ぶ。時には失敗し、時には泣き、時には笑う。練習は楽ではない。寧ろ辛く厳しいものだ。しかし、練習後、頬や体に吹く風は心地良い。今日も気分爽快。くたく

たになった体を引きずり帰途につく。帰って私達を待っているのは他でもない勉強である。我らが顧問の先生の口癖は「バレーと勉強の切り替えスイッチ」である。

西高における部活動に共通の確固たる信念ともいえる文武両道の精神。我がバレー部においてそれは殊更に強調される。部活中もしくは終了後、先生の口から「勉強」の二文字が出ない日は一日も無い。帰る道々、友人とバレーについて談笑しながら



は既に例のスイッチが準備万端、「ただいま」と玄関を開けたその瞬間、「バチン」が理想である。

バレーが私達に教えてくれることは数限りない。例えば忍耐力や不屈の精神、協調性などであるが、それは部活動においてのみ発揮されるものではない。私達の生活全般において、更には生涯を通して私達を支えてくれるはずである。今は自覚が無くとも、何年か後に「あの頃はね」と語り出す時になってはじめてわかるものもあるだろう。「プロ選手になつてバレーボールで飯を食えたりはしないが、バレーボールで仲間とおいしく飯は食えるぞ」という顧問の先生の言葉を信じ、競技を通して知り合えた仲間を生涯の宝としていきたい。

高校時代は人生における黄金期だとよく言われる。練習時間も短く、厳しい環境の中で、インターハイに出るなどという輝かしい成績を必ずしも残せるわけではないだろう。しかし、たとえ結果がどうであれ、私

白球を追え！ [女子バレーボール部]

達はこの時期にバレーをすることに誇りを持ち、私達自身のために白球を追い続けるのである。
(部員 岩田 美穂・真鍋亜希子)

株式会社 藤田製作所

株式会社プラント工業藤田 / 〒793-0000 愛媛県西条市港2-7 TEL(0897)53-8181・FAX(0897)53-8177
 本社工場 / 〒793-0000 愛媛県西条市港1-2(西条鉄工団地内) TEL(0897)56-5373・FAX(0897)56-9240
 西条東部臨海工場 / 〒793-0000 愛媛県西条市ひうち宇西ひうち3番10 TEL(0897)56-4677・FAX(0897)56-4680
 名古屋営業所 / 〒474-0000 愛知県大府市横根町林新田 TEL(0562)46-1748・FAX(0562)46-6546

バドミントン

女子団体4年連続優勝

6月5日から8日にかけて、県高等学校総合体育大会が松山市を中心に開催され、本校からも186名の生徒が参加し、各競技で活躍した。主な結果は以下の通り。

バレーボール

- 男子一回戦 新西 2-1今北
- 二回戦 新西 0-2今工
- 女子一回戦 新西 2-0東温
- 二回戦 新西 0-2今北

バスケットボール

- 女子一回戦 新西 46-89聖方

バドミントン

- 男子団体
 - 一回戦 新西 3-1松南
 - 二回戦 新西 0-3新東
 - 女子団体
 - 二回戦 新西 3-0松東
 - 準々決勝新西 3-0新南
 - 準決勝 新西 3-0松商
 - 決勝 新西 3-0新田
- (4年連続6度目の優勝、
四国・全国大会出場)

女子個人ダブルス

- 横井・加藤 1位
- (四国・全国大会出場)
- 山内・浦野 3位
- 真鍋・河原 3位

女子個人シングルス

- 横井 1位

卓球

- 加藤 2位
- (四国・全国大会出場)
- 山内 3位 (四国大会出場)

男子団体

- 一回戦 新西 1-3宇東

女子団体

- 一回戦 新西 1-3北宇和

ソフトテニス

- 男子団体
 - 一回戦 新西 3-0上浮穴
 - 二回戦 新西 1-2今北
- 女子団体
 - 一回戦 新西 2-1伊予
 - 二回戦 新西 0-2松西

ハンドボール

- 男子二回戦 新西 29-2東温
- 三回戦 新西 7-32新工

サッカー

- 一回戦 新西 3-1松商
- 二回戦 新西 0-1南宇和

柔道

- 男子団体
 - 一回戦 新西 1-4南宇和

弓道

- 男子団体 予選14位
- 女子団体 予選9位

登山

- 男子 5位
- 女子 3位

ダンス

- 題「失われゆく大地」 4位

剣道

- 男子団体
 - 一回戦 新西 4-1八工
 - 二回戦 新西 1-2今南
- 女子団体
 - 一回戦 新西 4-1帝京
 - 二回戦 新西 0-4済美

水泳

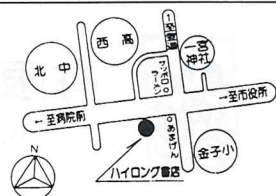
- 男子
 - 50m自由形 神野剛行 1位
 - 100m自由形 25.21(大会新) 神野剛行 1位
 - 100m平泳ぎ 木場教之 3位
 - 200m平泳ぎ 木場教之 4位
- 女子
 - 100mバタフライ 真鍋尚子 2位
 - 200mバタフライ 真鍋尚子 2位
 - 100m平泳ぎ 日野明日佳 3位
 - 男子400mフリーリレー 5位
 - (近藤、木場、玉井、神野)
 - 男子400mメドレーリレー 5位
 - (末長、木場、神野、玉井)

ハイロング商事株式会社

ハイロング書店

新居浜市一宮町2丁目1-41 TEL(0897)33-2932

代表取締役 近藤 博 司(普・S44年卒) 取締役 近藤 昌子(女・S15年卒)



創立80周年を終わって

教頭 高瀬 一秀

昨平成9年度は、本校にとって創立80周年という大きな節目の年となりました。「樟樹80年―大地に根付きそして未来へ―」のテーマの下に行われた記念事業並びに記念行事の概要を報告いたします。



記念事業

記念事業としては

- ①校訓碑の建立
- ②体育館の綴帳新調
- ③80周年記念誌の刊行

が行われました。

玄関前庭に建立された校訓碑は、越智郡大島産の花崗岩に、「自立生活」「自主学习」「自己鍛錬」の語を刻したもので、本校芸術科(書道)の今井浩子教諭が揮毫いたしました。



体育館ステージの綴帳は、金糸を織り込んだ濃い黄色を基調とし、華やかな色彩の中に、全体として落ち着いた雰囲気のものになっております。

御来校の折には、先の校訓碑とともに、是非御覧ください。

『創立80周年記念誌』は、本文を「女

学校編」「高等学校編」「定時制編」に分けて編集し、さらに「資料編」を付して、星霜80年の歩みをたどることが出来る内容となっております。

記念式典

次に、記念行事としては

- ①記念式典
- ②記念講演会
- ③記念運動会
- ④記念西高祭
- ⑤生徒記念誌「樟樹」・「西高新聞」・「新西図書館報」・「PTA通信」の記念特集号発刊

が実施されました。

記念式典は、10月4日午前10時30分から約1時間、愛媛県教育委員会、同窓会、PTAなど各界からの百十余名の皆様の御臨席の下、愛媛県知事様初め御来賓の方々的心温まる御祝辞を賜わり、厳粛のうちにも盛大に、本校体育館において挙行されま



した。

80周年という得難い時に立ち会うことのできた生徒たちは勿論、私たち職員も、改めて80年の歴史の重みを感じた次第です。

記念式典に続いて、京都大学工学部長土岐憲三先生による記念講演が行われました。先生は、本校を昭和32年3月に卒業され、現在、我が国地震工学の第一人者として御活躍の方です。

当日は、御専門の分野で、「地震災害と活断層―阪神淡路大震災の教訓―」と題して御講演をいただきました。専門的な内容の中に身近な新居浜付近の活断層を例として取り入れられたお話は、高校生にも分かり易く興味深いものでした。

以上、80周年記念について報告を申し上げ、卒業生の皆様からいただきました御支援へのお礼に代えさせていただきます。ありがとうございます。ありがとうございました。

本校は今年度、創立81年目へさらに90周年、100周年に向かって新たな歩みを始めたところでございます。生徒たちは、各地各界で目覚ましい活躍をされている卒業生の皆様を誇りに思い、新居浜西高校にさらなる伝統を積み重ねるべく、勉学に、部活動に力強く励んでおります。今後とも、卒業生の皆様から、本校教育に変わらぬ御協力、御助力を賜りますようお願い申し上げます。

仕出し・オードブル・お弁当

有限会社 池田食品工場

庄内町3丁目11番24号(南中学校南へ100m) ☎33-8311(代)

フリーダイヤル 0120-218014

ニイハマイチヨ

池田(福田)睦子(昭和29年) 池田 一夫(昭和54年)



新居浜 の動き

生涯学習都市宣言

新居浜市では昨年「市民一人ひとりが生涯にわたって個性を發揮し、生きがいのある人生を創り出し、学び合うことや学んだ成果を地域社会の中で活かすことを通じて、多様性や創造性が尊重されるまち」を目標として生涯学習都市宣言を行いました。



市庁舎前のモニュメント

その宣言を記念したモニュメント（市庁舎正面玄関西側）と王子町（住友別子病院西側）ポケットパーク内に『学習の木』モニュメントが完成しました。

市庁舎正面玄関西側のモニュメントは、新居浜市のアイデンティティである「銅」を素材としたもので、高さ2・8m、直径1・7mの地球型。夜間には中心部の「生涯学習で磨かれた市民一人ひとりの心と個性の輝き」をイメージした豆球が点灯するようになっています。

また、『学習の木』モニュメントは5つの御影石から成るもので、一番幅の広い石で幅5m、一番背の高い石で高さ4・5m。それぞれの石には、本市の生涯学習都市宣言の五つの柱と行動目標、人と木の成長を重ねて表現したイラストが彫り込まれています。

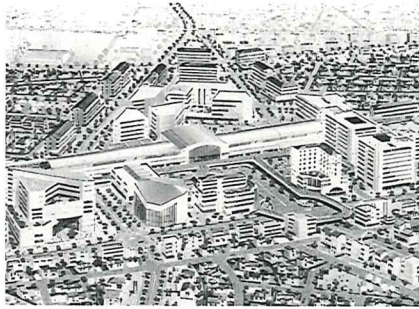
駅前土地区画整理 事業スタート

4月23日、「新居浜駅前土地区画整理事業」が正式にスタートしました。

この事業は、市の陸の玄関口であるJR新居浜駅北側の坂井町と庄内町の一部の約27・8haの地区を土地区画整理事業の手法を用いて、商業機能の集積し

た新都心地区として、都市基盤の整備を行うとともに、居住環境の整備により土地利用の向上と住み良いまちづくりを目指すものです。

総事業費は約238億円、事業期間は、平成10年度から平成19年度までを予定しています。また、この事業の進捗に合わせ、駅の南側地区や駅の高架化など、駅周辺の一体的な整備も視野に入れていく予定です。



駅前地区のイメージ図

国道11号新居浜 バイパス延伸

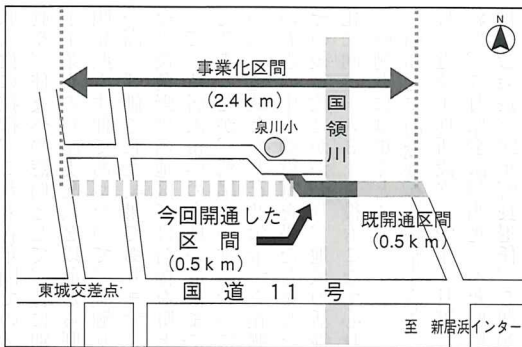
国道11号新居浜バイパスの事業化区間（東田3丁目～西喜光地町間）全長2・4kmのうち、東田2丁目～岸の上町間が4月8日開通しました。

この道路は、国道11号の慢性

的な交通渋滞の緩和などを図ると、昭和62年度から建設省松山工事事務所が総事業費約30億円で建設を進めているものです。今回開通した区間は暫定片側1車線、延長500m、平成4年7月に開通した東田3丁目～東田2丁目間500mと合わせて1kmが開通しました。

道路幅は26・5mで、全線南側に幅3・5mの歩道が設置されています。

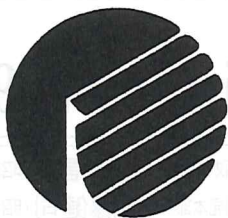
今回の開通により、四国縦貫自動車道（新居浜インター）と市街地との連絡が良くなり、地域の活性化と生活基盤の向上に役立つものと期待され、1日1万台以上の交通量が見込まれています。



DAIMARU

大丸・新居浜

電話 (0897) 33-4567



銅山を枕に 近藤廣仲翁逝(100歳)

新居浜市名誉市民

誕生の地立川

立川縁起によると上古、本土よりこの地(新居、宇摩、周桑)に渡った名族・御村氏によって銅鉱床の一部が採掘され、それは長谷坑、立川銅山の称号で残っているということです。

そして別子銅山が開坑する10年前(1681年)に長谷銅山が稼動しその後立川銅山になり、宝暦12年(1762年)に吸収合併されました。この立川に生活の場を求めたのは、農耕や林業ではなく、鉱山を中心としたあらゆる稼業で生活を潤していた人々でした。しかし農耕文化にない苛酷な労働の鉱山ですから、元

文3年の離山騒動、同4年(1740年)仲持らとの貸金問題、天明5年の坑夫騒動、慶応の買請米不支給の全山3ヶ月の大騒動、明治維新時の接収の危機、その後の近代化・大争議、坑内火災や、明治32年の大水害等の数々の苦難がありました。公害問題が表面化し、山根から惣開、そして四坂島へと移転し、遂に昭和48年、別子銅山の閉山、平成2年(1990年)には住友グループによる別子開坑300年記念式典が挙行されました。

歴史はこんなに古く、つぶさに立川山の人は、銅山とのつながりの中で、この銅山の生きざまをみつめながら、生活を練りひろげてきたのであります。しかし立川はなんと

ところで住友関係を希望すれば入社出来ないこともなかったし、将来県議になろう等と自覚したわけではないが、この歴史的に関係深い地について、近代化に進む住友と立川地区との接点をいかに求めるか、立川地区住民の生きる道は、地域の将来に対する抱負や考え方が廣仲青年の脳裏に明滅していたことは、彼の生活環境から当然で不思議ではないことでしょう。

青年団長としての活動も敬神崇祖昂揚、青少年の育成と人格形成に主眼を置き活発でした。一方早稲田の法律科や経済の講義録を取り寄せ深夜まで勉強にはげみ、社会にはさまざまな法と法の間隙等、30歳位までには諸知識は徐々に身に付けていました。当時大永に居た伊藤素道の社長が廣仲青年の事を「注文の商品を山合いの家々に配達しながら、読書していたことを今でも鮮明に覚えている」と話されるように勉強家であり実践家でありました。

志は高く

運輸課の職員に抜擢されたため、はからずも小学3年時に角野小から私立住友惣開小に転校。優秀であったが生来虚弱であり、西条中学への進学をあきらめました。自宅の雑貨店を手伝いはじめた頃から健康も増進し巨漢になり、順次店の手も抜け生活は安定していきました。

故 近藤廣仲翁

用銅山、天領と云う村の権威があり、その中で、別子銅山、所謂、住友の庇護なくして村の生活は一切成り立たない。そんな風土の中で廣仲青年は産まれ育ち羽ばたくのであります。翁の父が鉱山の

はばたく

昭和4年5月少壮33歳で角野村の

収入役に抜擢、これも青年団での活動や、住友への窓口として、特に別子工業所の鷲尾支配人と以前から肝胆相照らす仲であったので、肌触りが高く評価された結果であります。その後角野は当地区では裕福な町として、新居浜市への合併が最後まで延びましたが、鷲尾翁が常に云っていた「地域との共存共栄策」を在郷の有志の中心的役割を果たしました。その後行政とかかわり、地域の活性化に向け一人3〜5役もこなす自身の強靱さには驚くところです。

昭和12年助役就任(16年まで)、17年近藤工作所設立。22年4月町長就任、5月県会議員当選、24年県町村長会会長、26年町長退任、5期20年県会議員(71歳)と町政と県政に献身しました。

その後43年より10年間、新居浜商工会議所会頭、市観光協会会長、市森林組合長、瑞心寺護持会初代会長、内宮神宮責任総代、等多数の役職を歴任されました。

賞の数々の内、勳四等瑞宝賞(S47年76歳)、愛媛新聞賞(S63年)、県功労賞(H元年)、名誉市民(H2年)、大観光院禅道広深居士の享年100歳(1897・12・11〜1998・3・12)ご冥福を祈り、ご子息が継承する会社群のご発展を祝福します。(近藤工作所、東新製作所、タイワ、東予ゴルフ)

参考書籍 近藤廣仲伝「清流不盡」(H3年)、「別子銅山風土記」(廣仲収蔵写真集)(H2年)

設計・製造・管理まで、トータルシステムを実現する。

汎用CAD/CAM

実寸法師 for Windows 95

大好評発売中

開発元
株式会社タイワ

愛媛県新居浜市八雲町4-7
TEL:0897-32-9200
URL:http://www.taiwa.co.jp

常務取締役 武田信之(昭和28年)
取締役開発本部長 近藤健司(昭和59年)

本部だより

4月22日	樟樹編集委員会 (樟樹九号編集と原稿依頼について)
5月6日	会計監査 (平成9年度会計帳簿類) 常任理事会
5月22日	◇平成9年度事業報告 ◇平成9年度会計決算及び監査報告 ◇役員改選 ◇平成10年度事業計画案審議 ◇平成10年度会計予算案審議 ◇その他 樟樹編集委員会 (原稿×切編集作業)
5月27日	樟樹編集委員会 (原稿×切編集作業)
6月2日	理事会 (5月22日の議事承認)
6月12日	樟樹編集委員会(原稿校正)
6月24日	常任理事会 ◇平成10年度総会について、日時、場所、議事、運営方法、会員券の販売、広告等。
6月25日	樟樹編集委員会 (原稿最終校正)
6月29日	理事会 ◇平成10年度総会について、日時、場所、議事、運営方法、会員券の販売

[平成十年度事業計画]

7月15日	樟樹9号発行
8月1日	常任理事会 ◇総会準備打合せ 樟樹会総会及び懇親会 場所 リーガロイヤルホテル新居浜 時間 17時30分から 議事 ◇平成9年度事業報告、 ◇平成9年度会計決算報告 ◇監査報告 ◇役員改選 ◇平成10年度事業計画案審議 ◇平成10年度会計予算案審議 ◇その他
8月1日	常任理事会 ◇平成9年度事業報告、 ◇平成9年度会計決算報告 ◇監査報告 ◇役員改選 ◇平成10年度事業計画案審議 ◇平成10年度会計予算案審議 ◇その他
12月中旬	常任理事会 ◇平成10年度の反省 ◇平成11年度の予定 その他
2月中旬	理事会 ◇平成10年度の反省 ◇平成11年度の予定 ◇その他 同窓会入会式 (入会記念品贈呈)
2月下旬	卒業式において同窓会賞授与
3月上旬	卒業式において同窓会賞授与

支部だより

近畿くすのき会第5回総会開催

〔役員再、改選〕

○ 平成4年6月来延びのびとなっていた「近畿くすのき会」総会が、さる6月6日土曜日正午から大阪中之島センタービル「トップラウンジ31」に近畿在住の41会員が参加して開催され、新しい役員に次の3氏を選出して会のいっそうの充実をめざすことを約し散会しました。

副会長 小西 努氏(旧姓 吉田、昭和28年卒)
近藤 昭子氏(旧姓 黒川、昭和31年卒)
幹事長 津乘 宏通氏(昭和35年卒)

(加藤会長、青野副会長は再任)

○ 初夏の大阪市街を一望におさめる31階の会場では、公務多忙の中出席された本部樟樹会・世良会長ご持参の「新居浜太鼓祭り」全紙大ポスターと「別子館」、近畿くすのき会・加藤会長ご持参の「じゃこ天」が彩りを添え、昭和12年卒業の大先輩をも交えての懐旧談時局談は席を変えての2次会にも及ぶ盛り上がりを見せ、改めて「郷党の場」のぬくもりを確かめ合う形となりました。

○ 近畿くすのき会でもご多分にもれず、阪神大震災時における安否照会の通信費さえままならない台所事情が続いていましたが、総会前後には多くの同窓生からの年会費や寄付が寄せられ愁眉を開く状況となりました。また今回総会も、出席数こそ予想を下回ったものの数年次にわたる新しい人材の初参加もあり、当会のいっそうの発展を予感させる意義深い集いとなりました。

加藤会長をはじめとする新しい体制で12歳を迎える「近畿くすのき会」に、本部・東京・松山「樟樹会」各位のいっそうのご支援をよろしくお願いする次第です。

(前幹事長・鈴木 英夫)

— 総会及び懇親会の案内 —

日時	8月1日(土)	総会	17時30分開会
		懇親会	18時30分から
場所	新居浜市前田町	リーガロイヤルホテル新居浜	
会費	3,000円	会員券発売中	(当日も受付ます。お気軽にご参加下さいお待ちしております。)

会員からの便り

懐かしい日々をふりかえって

阿部由美子 (旧姓近藤 昭32年卒)

母校愛媛県立新居浜西高等学校を巣立って、四十二年の歳月が流れました。今年六十歳を迎える同窓生のなかには既に亡くなっておられる方も数名おられ、生命の重みを感じ、心からご冥福をお祈りいたします。

私も中学校の体育教師を振出しに、四十年の教員生活最後の年を迎えました。西高の西隣の北中にも勤務し、西高生の元気な声を心強く聞いて五年間過ごしました。

特にプールで授業をしていると、西高の校庭がよく見え、校庭を走り回った頃を懐かしく思い出しました。毎朝一宮の楠の横を通る、西高生となった教え子達とすれ違う通勤をしています。

西高の校舎は、すっかり変わってしまいましたので当時を偲ぶものはありません。何度か入学試験に生徒を引率しましたが、学校施設は立派で圧倒されました。

歩くとギンギシと音の出るうぐいす張りの廊下、やや隙間の開く教室の戸、木枯らしが吹くと小刻みにぶるぶる震えていた木の棧が入ったガラス窓、古い映画を見るような、たま

らなく懐かしい校舎を思い出します。職員室の南側に小さな池がありましたが、飛び石があつて行ったり、来たりの憩いの場所でした。中庭の芝生は昼休みに車座でおしゃべりの出来る大好きな所でした。

私達の学年はとにかく女の子が賑やかで、この賑やかさは、当時の先生方に卒業後もずっと云われました。一年生の時、先生方のソフトボールの試合を審判するように云われ、「離塁制限」というルールを偉そうに先生に注意したりしました。全く怖いもの知らずで、申し訳ないことをしました。

バスケット部に所属していましたが、練習場所の体育館の床がドリブルをする度にバウンドが変化しました。それで鍛えられたのかもしれませんが、素晴らしい顧問の先生に恵まれ、女子バスケット部はインターハイ出場を果たしました。運よく秋田市迄連れて行って貰えるということになりました。当時の新幹線というような交通機

関はありませんでしたので、長い長い旅でしたが、先輩に混じってよく食べ、よくしゃべり、そしてよく寝ました。試合は二回戦で負けましたが、「上には上がある。」ということを知らされ、悔しがる先輩の横でオロオロしたのを覚えています。最近の高等学校の運動会は夏休みの終わり頃練習を始め、二学期が始まるあたり間を置かず授業日に実施しているようですが、私達が高校生の頃は大型のアーチを作り、パネルできちんと応援席を作り日曜日に実施されていました。夜遅く迄準備や練習に追われましたが、どの人の顔も輝いて他の組に負けないように工夫を重ねました。あれは三年生の運動会だったと思います。学級で仮装行列をしようということになり、「古今東西アベツ

ク集」というテーマでしたが、どう組み合わすかを口角泡を飛ばして相談しました。私は源義経になりました。当時の写真を見ると、大真面目な顔で静御前の手を取っています。その時メーキャップのために家族の手を借りたことも忘れません。

輝く楽しい高校の生活でした。教え子達が後輩となって私達が体験した「宝石」のような思い出が一杯出来ることを祈らずにはいられません。教師という職業を西高の三年生で決意し、あと少しで四十年間勤め終えることが出来ます。四十年の間にはとてもひと口には表現出来ないいろいろなことがありました。忙しかつたけれど充実していた日々でした。これからの人生もやはり多少のプレッシャーを自分に課して生きていきたいと思えます。

同期会案内

同期会開催の節は事務局へご連絡下さい。可能な限り掲載致します。(編集委)

昭和44年3月卒業生、卒業30年記念同期会

- 日時 / 平成11年1月2日 午後5時～
- 場所 / リーガロイヤルホテル新居浜
- 世話人 / 近藤博司、菅 伸明、菊地 修、秦 節子、伏見紀子他

1月3日にゴルフコンペも予定しております。詳細は、10月頃ご案内状送付予定。

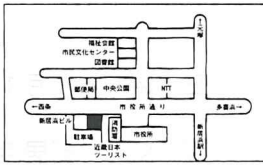
信頼される旅づくり

ツーリストは旅の情報ステーション

近畿日本ツーリスト 新居浜支店

☎(0897)37-2431代 FAX [0897] (32) 5314

●営業時間：平日9:30～17:30 土曜日9:30～12:45 日曜・祭日は休み



新居浜市一宮町1-5-50 (新居浜ビル1F)

日本の旅 メイト
世界の旅 トライ!



いい旅なんでもアイデア

同期会だより

25年分のパワー炸裂!

白石 研二 (昭47年)

「お蔭様で新しいエネルギーをもらって帰ることができました。」
 「25年のブランドを飛び越えて学生時代に戻り…」

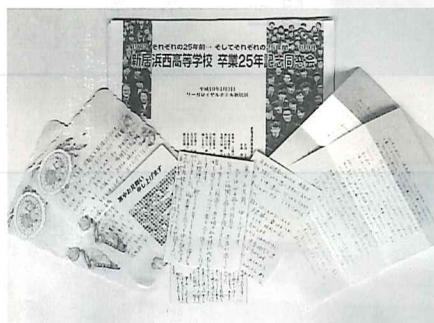


「あの日から本当の仲間になったよ
 うな手応えも感じ取りました。」
 「あまり話をしたことがない人とも
 不思議と盛り上がるのができ…」
 「昼も夜も頭の中のスクリーンが、
 あの日の繰り返しばかりで…;もしや
 『我が青春に悔いあり症候群』では
 と心配になるくらい…」
 来賓の先生方六名・同期生百二名
 十六一枚?の出席を頂いた私たちの
 「卒業25年記念同窓会」出席者から
 届いたお礼状の一部です。
 六一枚は、欠席者からのメッセー
 ジ。会場で披露しようとパネル貼り
 したのですが、これが超人気者!開
 会前からロビーで引つ張りだこ。開
 会中も入れ代わり立ち替わり熱心に
 見入ったり住所をメモったり、と
 う二次会にまで出席した程。

毎年同期会をしています

詰光 晴子 (昭11年女)

去る五月二十八日に、市内「リー
 ガクアガーデン」にて同期会を催
 しました。
 私達は昭和十一年三月、六十六名
 が卒業致しました。中には亡くなら
 ず、今年のは日帰りの予定でしたの
 で、香川県、愛媛県にお住いの方ば
 かり十七名集まりました。年に一度
 の同期会も戦後だけでも三十回をこ
 えました。どなたも八十才近いおば
 あさんとは思えない程元気で、楽し
 く一日をすごす事が出来ました。
 来年も又集まる事を約束致しまし
 ました。



「それぞれの25年前…そしてそれ
 ぞれの25年間…」そんなキャッチフ
 レーズで開催した私たちの同窓会は
 予想をはるかに上回る盛り上がり様
 欲談に入るや否や着席している人な
 どほとんどいない状態。用意した当
 時のヒット曲を集めたBGMなど無
 駄になる程の賑やかさ。(もつとも
 終盤はさすがに疲れが出たのか、席
 に着く人も増えてきましたが…)。
 「同じ時代空間を共有した同期生
 っていいもんだなあ…」スタッフの
 共通した思いです。またパワーを貯
 めて30周年で会いましょう!

編集後記

この「樟樹」も9号を無
 事発刊する事ができました。
 本年3月をもって同窓会
 本部の大西事務局長が退任
 され、後任が不在の状態
 で編集が進められました。昨
 年まではなにかもお願
 いしていましたが、居なくな
 って初めてありがたさがわ
 かりました。

幸いにも、編集委員会を
 願ったところ、快くお引
 き受けくださり、いろいろ
 助けていただきました。

私のあまり好きでない球
 団の現監督が、現役引退の
 時、名台詞を残しておりま
 すが、大西事務局長は「10
 年一区切りです」の一言で、
 誰の慰留も受けけないとい
 う確固たる信念をお持ちの
 ように思えましたので、私
 もお引留めするのを断念致
 しました。

10年間ご苦労さまでした。
 本当にありがとうございます。
 した。

今号より、購読申込み者
 のみにお送りしております。
 同期の方やお知り合いに、
 届いてない方がいらつしや
 いましたら、お勧め下さい
 ますよう、編集委員会より
 お願い申し上げます。



編集委員：「学習の木」モニュメント前にて

同窓会誌「樟樹」第9号

- 会 長 世良 誠朗 (昭26)
 副 会 長 青野 泰三 (昭32)
 田坂 初代 (昭10)
 (女部会長) 藤本スママ (昭16)

- 編集委員長 近藤 博司 (昭44)
 委 員 武田 信之 (昭28)
 〃 安田 正純 (昭30)
 〃 下村 隆勇 (昭30)
 〃 藤田 石根 (昭31)
 〃 大西 章夫 (昭39)
 〃 近藤 紀子 (昭42)
 〃 伏見 伸一 (昭46)
 〃 石田 伸一 (昭44)
 〃 安藤 寛和 (昭58)
 〃 五味 稔 (昭61)
 〃 越智 孝司 (平2)
 〃 白井美加子 (平2)
 〃 寺西加代子 (平3)

発行所 樟樹会
 〒792新居浜市宮西町4-16
 TEL 089971324331
 FAX 08971324331
 発行者 世良 誠朗
 編集者 近藤 博司
 印刷所 (株)関西廣済堂
 発行日 平成10年7月15日